

そよかぜ 9月園便り

令和5年9月1日(金)

西東京市立そよかぜ保育園

コロナ禍が明けて外出制限もなくなり、この夏は遠出をされた方も多かったのではないのでしょうか。私(今宮) といえば、遠出はしなかったものの久しぶりに東京ドームに行って野球観戦をしてきました。暑さ対策に水分補給…と色々準備していたら、ちょっとした旅行のような荷物になってしまいましたが、目の前で繰り広げられる攻防戦は見応えがあり、応援合戦にも熱が入りました。(ちなみにジャイアンツ VS ベイスターズ戦でした)

「プロってすごいな」と改めて感じた次第です。

私たちが専門職として「**プロ意識**」をしっかり持って、日々の保育を実践していきたいと思えます。

先月の園日よりでもお知らせした通り、今夏は初めての試みとして、「**夏休みを利用して小学生以上の子どもたちが保育園で一緒に過ごす**」機会を作りました。

きっかけは、3歳クラスに在園するお子さんのお兄ちゃん(小学校5年生)が朝一緒に来た時に、重たい積み木を運ぶのを手伝ってもらったところ、お母さんが「夏休みに保育園でお手伝いさせてもらおうといいんじゃない?」と言った一言でした。

元々地域の方とのつながりや、そよかぜ保育園を卒園した後もいつでも立ち寄れるような繋がりを持っていたという私たちの思いから、小学生以上の子どもたちとの交流を大事にしたいと考えていました。(ちなみにこのお兄ちゃんはそよかぜ保育園の卒園児ではありませんが、そんなことは全然関係ありません!)

また、長い夏休みの間の居場所の一つになったら良いなという思いと共に、少しでも保育に触れる経験ができて、そして行く行くは「保育士になりたい」という子が出てくれば嬉しいなと虫のいいことも目論んでいます。

そしてこの夏、全部で6名の小学生が保育園で、一緒に過ごしました。(4年生2名、5年生4名)

皆とても自然にクラスに入り、あっという間に子どもたちの人気者に。お姉さん、お兄さんの周りにはいつも子どもたちが集まっていました。皆真剣に、そして優しく小さい子たちと接してくれて、かつこいいお手本にもなってくれました。部屋の雑巾がけにトイレ掃除、子どもたちのお昼寝の際も手伝ってもらいましたよ。職員からも「助かったー!」という声が…

小学生たちの中には1日だけでなく、2日~4日来てくれた子もいます。「楽しかったです」という感想も多く聞かれ、今後この経験が、何かの役に立つといいなと思えます。

園の子どもたちにとっても、お兄さん・お姉さんはまた大人とは違う、少し先に行くかつこ良くて優しく、「こんなふうになりたい」という存在だったと感じています。

「繋がっていくこと」を大切に、これからも色々な取り組みをしていきたいと思えます。ご協力、よろしくお願ひ致します。

<https://soyokaze-hoikuen.net/>



～ 今年も年長クラスが『縄編み』をやりました ～

お友達と協力して布を裂き、3本布を選びます。2色（2本は同色、1色は別の色）で編んでいくことで、編み目がとんでしまっても自分で気付いて編み進めていけます。“せっかく編んだのに編み目が一か所とんでる、、、”ということもありますが、編み直すよりしっかりとした縄が完成。

毎日たくさん跳んで遊んでいますよ。



9月の行事

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
	5才みどり交流				5才四園交流	
10	11	12	13	14	15	16
			5才園外お泊り保育 布団乾燥	5才園外お泊り保育		
17	18	19	20	21	22	23
	敬老の日				田無一中職場体験	秋分の日
24	25	26	27	28	29	30
		誕生会 避難訓練			お月見会	

暑い夏が過ぎようとしています。

じっとしていても流れてくる汗 夜になってもクーラーを OFF にできない日々。地球温暖化が急速に進んでいることを実感。あちこちに大雨を降らせた台風の被害 近年にない台風の動きに戸惑うばかりです。

9月1日は 防災の日 万一に備え ご家族で安否確認や避難方法等、再確認しておきましょう。

熱中症対策もまだまだ必要ですね。クーラーの心地よさに慣れ、人間が本体持っている体温調節機能が低下しているように思えます。水分補給はどうされていますか？ 口当たりの良い冷たい物を飲みがちですが、ご用心！！ 冷たいものを飲むとかえってお腹を壊すことにもなります。身体にやさしい常温が一番ですよ。こまめに補給しましょう。 保育園では一年中 延命茶。「ごくごくとコップで2杯は飲もうね。」と子どもたちに声掛けしていますが、それでも足りないくらいです。 いい汗をかきたいですね。

子育ての心

子育ての心は 花を育てる心に似ています。
 美しい花を見たいからといって
 自分の思いのままに
 少し出かかった花の芽を
 指で ひっぱったり
 伸ばそうとしても
 花は決して育ちません。
 本当の花を咲かせる前に
 根こそぎ引き抜くような子育てを
 してないと言えるでしょうか。
 幼児期は
 人として 生まれた子ども達が
 人間として 育つための
 心と 根っこを育てる時期なのです。

ありがとう



20年近く子どもたちを山や河原…等
 いろいろな所へ連れて行ってくれた
 たつのご園バス いよいよお別れで
 す。

感謝を込めて 沢山・沢山 ありがとう

子どもは紫の露草（広木克之）エッセイ集より
 広木克之神戸大学名誉教授 は長年
 不登校の子ども達に寄り添って来られました。
 「子どもは育ち直しの名人」「子どもが教えてくれたこと」「人が育つ条件」他 沢山の著書があります。いつも勇気つけていただいている私の大好きな先生です。

氾濫する子育て情報 迷った時 是非 手に取って読んでみませんか。

職員のつぶやき

私は長崎県の島で生まれ、自然に囲まれて育ち、通っていた保育園でものびのびとした環境で過ごし、沢山 動き回っていました。夏は海で泳いだり、みんなで森の中へ探索して、見たことのない小道を見つけてはひっそりと探検することがとても楽しかったりと、近くにある自然の中で、毎日思いっきり遊ぶことが当たり前でした。上京して4年目になりますが、園庭がない保育園、公園が少ないなど感じていた中、そよかぜ保育園と出会いました。

園庭をのびのび駆け回り、泥んこになりながら大きな砂山作り。また、どどめを摘んだり、川遊びをしたりと、少ないながらも最大限自然を感じ、触れて過ごしていると、幼少期を思い出します。これからも日常生活や、行事など子どもたちと色々な事を経験し、学び、“楽しい”を共に感じていけたらと思います。

そよかぜ保育園 山内優奈